様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年５月３０日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2005～2008
課題番号：17330116
研究課題名（和文）　未公刊・新資料の活用によるパーソンズ理論の再構成と実践的展開

研究課題名（英文）　Reconstruction and practical development of Parsons' s theory by applying unpublished / newly found materials

研究代表者
油井　清光（YUI KIYOMITSU）
神戸大学・大学院人文学研究科・教授
研究者番号：10200859

研究成果の概要：
パーソンズ理論を、未公刊・新資料を活用する近年の水準において再構成し、その現代社会分析に対する実践的応用可能性をいくつかの領域において示すという課題を、一定程度達成した。医療・生命研究、グローバル化と宗教、知の生産様式と大学、社会学的公共性論の構築という夫々の課題領域において一定の成果を得、とくにそれら全体の統一的基礎理論をなす、規範生成論において前進した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2005 年度	4,000,000	0	4,000,000
2006 年度	3,700,000	0	3,700,000
2007 年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2008 年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
年度			
総　計	15,000,000	2,190,000	17,190,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：一般理論

１．研究開始当初の背景

タルコット・パーソンズ理論は、第二次大戦後から７０年代初頭までにおける、アメリカ国内及び日本を含む世界での広汎な受容期を経て、その後は厳しい批判と、にもかかわらず受容後の潜在的な理論展開期を経過してきた。2001 年における生誕百年の節目前後から、「パーソンズ・ルネッサンス」ともいうべき再評価が進展したが、本研究もその新たな潮流に棹差すものであった。

理論展開としては、本国アメリカよりはむしろヨーロッパ及び日本において主要な発展があった。ヨーロッパでは、J・ハーバーマス及び N・ルーマンによる批判的発展があり、日本では高城和義によるハーヴァード・アーカイブズの資料を駆使した新たな段階・水準の研究成果があった。本研究は、これらの成果を吸収しつつ、さらに新たな展開をめざすための調査研究として設計された。本研究以前に、科研費基盤（B）（２）、2003～2005、により「未公刊・新資料の活用によるパーソンズ理論像の再構築」に従事してお

り、本研究はその延長上に、パーソンズ理論を再構成するだけでなく、その現代的意義や実践的意義を幅広く踏査することが次の課題として設定されるべきであるという理論状況を背景として開始された。

２．研究の目的

パーソンズ理論を、現代社会における諸課題と明示的なレリヴァンスを持つものとして再構成すると共に、その実践的応用可能性を示すことが本研究の目的である。そのため、理論の再構成の核に規範生成の基礎理論の構築作業を据え、その下に以下の４つの具体的領域を設定した。

１．医療・生命、２．グローバル化と宗教、３．知の生産様式・大学、４．社会学的公共性論の構築、である。これらは、現代社会において実践的対応が迫られている課題であるが、特にその統一的基礎理論は希薄であり、最終的にはこの問題に応えることが目指された。即ち、まず夫々の課題領域ごとに調査研究と理論の（再）構築をすすめ、それらを、担当者達による共同討議を深めることによって、パーソンズ理論からの発展として統一的基礎理論の構築へとつなぐことである。

３．研究の方法

パーソンズ理論の原典批判を継続発展させることを基礎とし、現代社会学におけるパーソンズ以後の諸流派との対話も深めつつ、４つの課題領域ごとの担当者を設定し、課題ごとの調査研究を進めた。原典批判の継続・展開については、引き続き連携研究者としてV・リッツ教授の協力を得、統一的理論としての規範生成の基礎理論の構築については、同じく連携研究者としてB・ターナー教授の協力を得ながら、現象学的社会学、エスノメソドロジー、シンボリック相互行為論、ルーマン研究、ハーバーマス研究者らとの対話を進めた。

課題領域ごとに、担当研究者を配置・組織した（張江洋直、進藤雄三、鈴木健之、中村文哉、白鳥義彦）。「医療・生命」は、主に進藤、中村、油井（ターナー）、「グローバル化と宗教」は、鈴木、油井、ターナー、「知の生産様式・大学」は、白鳥、油井、「公共性」は、ターナーと油井。各課題領域での調査研究と、全体会議での基礎理論構築へのそのフィーソバックを重ねることによって研究成果の蓄積を目指した。

４．研究成果

規範生成の基礎理論の構築としては、法という制度的規範システムと、グローバル化した社会とのその関連や、新たな法概念や法適用の可能性という主題に関する研究を進展させた。また課題１．「医療・生命」に関しては、中村と油井が、沖縄のハンセン病患者施設での現地調査を行いつつ、現象学的社会学、パーソンズ医療社会学の方法論等による分析枠組と理論の展開を図り、その一部を論文にまとめると共に、シンポジウム・学会などで理論構築の契機としても公表してきた。２．「グローバル化と宗教」については、ターナーとの共同討議やシンガポール国立大学、国内外の学会での報告などをとおして、その現状の調査分析と理論枠組の構築を進めた。特に、グローバル化の中でも文化生産や現代のポピュラーカルチャーという側面の研究において、大きな進展があった。３．「知の生産様式・大学」と４．「社会学的公共性論」に関しては、社会学における古典研究の意義とその現代社会の問題状況への応用可能性の問題、ハーバーマス流の公共性概念の現代的転換等の主題に関する研究を進展させた。これらの研究成果は、国際社会学機構（IIS）や国際社会学会（ISA）等の世界大会や、国内の主要な社会学会の大会における報告として公表し、また論文等として公表してきており、当該分野の先端の成果として国内外において位置づけられると共に、国内外でのこの分野への相当のインパクトを有している。今後、ハーバーマス、ルーマン等の現代理論の展開を一層視野に入れた社会学理論の更新を図ることを展望しつつ、そのための基盤を構築しえたと考えられる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１５件）

①鈴木健之、ユニバーサリズムの社会学、「言語教育研究」、２号、51-57，2009，査読有

②白鳥義彦、フランスの高等教育をめぐる新たな動き、「社会学雑誌」、２５巻、62-71、2008，査読無、

③白鳥義彦、デュルケームと個人主義、「社会学史研究」、３０巻、73-86，2008，査読無

④中村文哉、＜渡り＞が拓く＜もう一つの社会＞、「山口県立大学社会福祉学部紀要」、１５号、71-99、2008，査読無

⑤進藤雄三、バウマンとパーソンズ―近代性をめぐって―、「社会学史研究」、２９号、21-37，2007，査読有

⑥中村文哉、ハンセン病罹患者の＜居場所＞、「山口県立大学社会福祉学部紀要」、１４号、41-65, 2007, 査読無
⑦油井清光、パーソンズ・ベイトソン・再魔術化―脱パラドクス化と身体―、「社会学研究」(東北大学)、７９号、5-34, 2006, 査読無
⑧張江洋直、シュッツ社会学の継承と展開、「年報社会科学基礎論研究」、４号、198-203, 2005, 査読有

〔学会発表〕(計２５件)
①油井清光、Civil Society in Comparative and Contemporaneous Contexts, 国際社会学会 ISA 中間期世界大会、2008 年 9 月 6 日, バルセロナ（スペイン）
②白鳥義彦、The Role of Association in the Modern Society, 第３８回国際社会学機構 IIS 世界大会、2008 年 7 月 4 日, ブダペスト（ハンガリー）
③油井清光、Symbolic Media and the Theory of Social Transformation: From Luhman via Habermas to Parsons, 国際社会学会 ISA 理論部会世界学会、2008 年 6 月 25 日, 釜山大学（大韓民国）
④鈴木健之、ネオ機能主義以降のアレクサンダー―個人化をめぐって―、４８回日本社会学史学会大会シンポジウム、2008 年 6 月 23 日, 鹿児島大学
⑤白鳥義彦、フランスにおける「アファーマティブ・アクション」をめぐって、２００７年度日仏教育学会、2007 年 10 月 28 日, 愛知県立大学
⑥油井清光、On the Concepts of Civil Society and Societal Community, 2007 年アメリカ社会学会年次大会、2007 年 8 月 11 日, ニューヨーク
⑦白鳥義彦、デュルケームの個人主義について、第４７回日本社会学史学会大会、2007 年 7 月 1 日,盛岡大学
⑧油井清光、Glocalization, Comparative Modernization Studies and Post-modern Pop cultures, 国際社会学会 ISA 世界大会, 2006 年 7 月 25 日, Durban (South Africa)
⑨油井清光、Parsons, Bateson and Re-enchantment: De-paradoxization and the Body, International Parsons Conference, 2006 年 7 月 17 日, University of Manchester
⑩油井清光、Parsons and the Body, 2005 年国際社会学機構 IIS 世界大会、2005 年 7 月 10 日, Stockholm (Sweden)

〔図書〕(計１４件)
①白鳥義彦、「転回点を求めて―１９６０年代の研究」、総頁数 300、世界思想社、2009
②油井清光、「社会の構造と変動」、総頁数 260、世界思想社、2008
③白鳥義彦、「教育から職業へのトランジション―若者の就労と進路職業選択の教育社会学」、総頁数 300、東信堂、2008
④白鳥義彦、「共生の人文学」、総頁数 258、昭和堂、2008
⑤油井清光、「規範と交渉」、総頁数 257、法律文化社、2007
⑥張江洋直、「ソシオロジカル・スタディーズ」、総頁数 281、世界思想社、2007
⑦張江洋直、「入門 グローバル化時代の新しい社会学」、総頁数 249、新泉社、2007
⑧進藤雄三、「医療化のポリティクス」、総頁数 261、学文社、2006
⑨油井清光、「理論社会学の可能性」、総頁数 293、新曜社、2006
⑩油井清光、「新しい社会学のあゆみ」、総頁数 353、有斐閣、2006
⑪進藤雄三、「近代性再考――パーソンズ理論の射程」、総頁数 240、世界思想社、2006
⑫油井清光、「身体の社会学」、総頁数 362、世界思想社、2005
⑬油井清光、「社会文化理論ガイドブック」、総頁数 302、ナカニシヤ出版、2005

６．研究組織
(1)研究代表者
油井　清光（YUI　KIYOMITSU）
神戸大学・大学院人文学研究科・教授
研究者番号：１０２００８５９

(2)研究分担者
張江　洋直（HARIE　HIRONAO）
稚内北星学園大学・情報メディア学部・教授
研究者番号：６０２５８９６０

進藤　雄三（SHINDO　YUZO）
大阪市立大学大学院・文学研究科・教授
研究者番号：００１８７５６９

鈴木　健之（SUZUKI　TAKESHI）
盛岡大学・文学部・准教授
研究者番号：９０３１０２３４

中村　文哉（NAKAMURA BUNYA）
山口県立大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号：９０３０５７８９

白鳥　義彦（SHIRATORI　YOSHIHIKO）
神戸大学・大学院人文学研究科・准教授
研究者番号：２０３１９２１３

(3)連携研究者

リッツ　ヴィクター（Victor Lidz）
ドレクセル医科大学・嗜癖性疾患研究科・
准教授

ターナー　ブライアン（Bryan Turner）
シンガポール国立大学・社会学部・教授